

相手を思いやる心をはぐくむ情報教育

—情報モラルを取り入れた道徳の時間の指導を通して—

平成17年度 仙台市教育センター

情報教育研究推進委員会 情報モラル部会

<http://www2.sendai-c.ed.jp/~center/jouhoweb17/index.html>

仙台市立北六番丁小学校 教諭 鈴木一生

ichio@sendai-c.ed.jp

キーワード：情報教育，情報モラル，道徳，自作資料，電子メール

1. はじめに

仙台市教育センターの情報教育研究推進委員会では、「確かな学力と豊かな心をはぐくむ情報教育」というテーマのもと、5つの部会で情報教育の推進にかかわる活動を行っている。年間8回委員会を開催し、その中の1回を部会ごとの授業実践とし、最終回は発表会を行う予定である。委員会として設定されている活動日以外に、各部会の代表者で構成する代表者会メーリングリスト、部会ごとのメーリングリスト、部会ごとのWebページを活用しながら、研究を推進している。

情報モラル部会では、情報教育によって子どもの豊かな心をはぐくむことを目的とし、「相手を思いやる心をはぐくむ情報教育－情報モラルを取り入れた道徳の時間の指導を通して－」というテーマで、小学校4名，中学校1名，合計5名の委員で活動している。

まだ研究の途中ではあるが、情報モラル部会のこれまでの活動と今後の予定などについて紹介する。

2. 本研究の基本的な考え方

(1) 相手を思いやる心

現在の高度通信ネットワーク社会では、匿名性や覆面性といった特性をもつネットワークを活用し、電子メールや電子掲示板など、主に文字言語によるコミュニケーションが盛んに行われている。特に、携帯電話の普及により、時間や場所を選ばず、誰でも手軽に情報のやり取りができるようになった。しかしその一方で、人間関係の希薄化や現実からの遊離などといった問題も顕在化してきている。このような時代を生きる子どもたちには、ネットワークの特性の理解とともに、ネットワーク上の相手を意識し尊重する心をはぐくむ情報教育が急務である。

学校においては、子どもたちに、機会をとらえ、相手を思いやることの大切さについて常に指導している。教育の情報化が進展した現在、ネットワーク上の相手への思いやりの心を育てていくことは、指導者が常に意識し、あらゆる教育活動の中で確かに実践していくべきことだと考える。

(2) 情報モラルについて

情報モラル部会では、情報モラルの定義を「情報社会において、適正な活動を行うための基になる考え方と態度」（新「情報教育に関する手引」文部科学省）ととらえた。また、小学校から中学校にわたる段階的・具体的な指導目標については、昨年度の情報教育研究推進委員会の成果である、情報教育の「目標リスト」（<http://www2.sendai-c.ed.jp/~evaluation/>）を活用することにした。

情報社会に参画する態度 B情報モラル・情報発信の責任についての理解				
小項目	Step1 (小学校低学年)	Step2 (小学校中学年)	Step3 (小学校高学年)	Step4 (中学校)
1 情報モラル：情報の発信者として	人を傷つける情報を流してはいけないことを知る。	相手の気持ちを考えて自分の意見を表現する。	相手の立場を考えた表現で情報を発信することができる。	自分の発信した情報に責任を持つ。
2 情報モラル：情報の受け手として		情報の中には、モラルに反するものがあることを知る。	モラルに反する情報への対応の仕方を考える。	モラルに反する情報への対応の仕方を理解し、適切に行動できる。
3 個人情報の保護	個人の情報があることを知る。	自分や他人の情報を大切にすることができる。	個人情報の保護に配慮して情報を発信することができる。	個人情報の保護について正しく理解し、責任を持って行動できる。
4 知的所有権の理解	自分や友達作品を大切にできる。	自分の作品にも知的所有権があることを知る。	知的所有権を意識して情報を収集・発信することができる。	知的所有権を理解し、情報を収集・発信することができる。

表1 情報教育の目標リスト（情報モラルに関連する項目の抜粋）

情報モラルには、情報をやりとりする相手を思いやって行動するといった道徳的な側面と、ネットワークを保持し、共用するための規則的な側面とがある。規則としての内容は、情報技術の進歩によって変化する可能性があり、子どもに正しい知識を与える指導が必要となるだろう。それに対して、道徳的な内容は普遍であり、子どもに話し合わせ、考えさせるような授業が想定できる。

本研究では、情報モラルの道徳的な内容に焦点化し、その指導の在り方を検討して実践することにした。

(3) 情報モラルを取り入れた道徳

情報モラルの指導にあたっては、何らかの問題が起これ、それに対処する形で知識を与えるだけでは不十分である。まず、ネットワークを活用する上で生じると考えられる問題を、自分の経験と照らし合わせるなどして、自分自身の問題だと実感させたい。その上で、友だちと話し合い、自分の生活を振り返って内面的な価値を高めるとともに、自分から情報モラルを意識し、実践していこうという態度を育てていきたいと考えた。

そのために、道徳の時間に情報モラルを取り入れて指導することにした。

3. 実践授業の概要

- (1) **単元名** 相手のことを考えて
- (2) **日時** 平成17年11月24日(木) 13:40
- (3) **指導者** 仙台市立立町小学校4年1組 石川 裕美 教諭
- (4) **実践の視点**

① 体験を取り入れた道徳の授業

今回の実践では、子どもたちが興味を持ち始めている電子メールを取り上げることにした。

情報モラルの指導にあたっては、ネットワークを活用し、その特性を理解させながら、道徳の授業を展開する必要がある。子どもたちには、総合的な学習の時間において、電子メールをやりとりする経験をさせておく。このとき、電子メールの特性や約束について指導しておくことにした。

子どもたちが使用する電子メールは、グループウェア（スタディーノート）を活用し、校内LANでやりとりすることにした。

② 情報モラルにかかわる資料の作成

電子メールを通して情報モラルを考えさせ、ねらいとする道徳的価値に迫るために、自作資料を開発した。資料の概要は以下の通りである。

潤と健太は大の仲良しで、互いに電子メールを送り合う楽しさを知り、夏休み中はさまざまな約束を電子メールでしようとした。ある日、健太はクワガタがいる場所を知り、取りに行こうと電子メールで潤を誘った。ところが、いつまでたっても返事がこない。腹を立てた健太は、いらいらした気持ちを電子メールにぶつけて送信してしまう。しかし、その日の夕方に届いた潤からの電子メールに、健太ははっとする。自分の身勝手さや健太の気持ちに気づき、先生に言われた電子メールでの約束を思い出した。健太は自分のしてしまったことを振り返り、潤に謝るメールを打つ。

資料から、自分の思い通りに行かなかったときの気持ちや、自分のまちがいに気付いたときの気持ちを、子どもたちは共感的にとらえるだろう。そして、よく考えて行動し、過ちを素直に認めることは大切だと実感させたい。

自作資料はパワーポイントで作成し、プロジェクタで一斉に見せることにした。また、登場するキャラクターなどについては、東北学院大の協力を得て作成した。

(5) ねらい

<道徳の時間のねらい>

- メールを送ったり受け取ったりしたときの健太の気持ちに共感する。
- 健太の気持ちに共感し、まちがったことをしたら素直に謝ろうという気持ちをもつ。
- 自分の言動を振り返り、価値の内面的な自覚を深める。

<情報教育のねらい>

- 相手の立場を考えた表現で情報を発信することの大切さが分かる。

4. 今後の予定

- (1) **授業の実施と協議**
 - ・11月24日に授業及び検討会を行う。
- (2) **授業実践のまとめ**
 - ・11月29日に第6回の委員会を開催し、授業実践のまとめを行う。
- (3) **平成17年度Eスクエア・エポリューション 先進IT活用教育シンポジウム in 宮城（12月1日）**
- (4) **報告書作成・推敲**
- (5) **情報教育研究推進実践発表会（仮称）**
 - ・2月3日（金） 14:00から、教育センターを会場に研究発表会を行う。
 - ・5つの部会全てが分科会に分かれて発表し、協議をする。
- (6) **Web ページの作成と情報公開**